



市史へんさん

第 261 号

令和 2 年 12 月 1 日

小松市史編纂担当

へんさんだより

早、1年の終わりが近づきました。今年はコロナ禍に明け暮れ、その収束もままならないまま、第3波が押し寄せるという今、いかに個々の予防が大切か、その心掛けをしっかりと持ちたいものです。

さて、12月6日にいよいよ市制80周年記念式典が開催されます。これまでに数多くの記念事業が展開されて来ましたが、市史講座も、利常入城380年の節目と相まって、その軌跡を振り返り、事業に華を添えました。

干支の始まりの子年もあと1ヵ月。世界的にもコロナ禍で震撼する一年でしたが、来年はオリンピックの開催も控え、明るい年にしたいものです。

小松市制80周年記念事業 第91回市史講座『一番大名』前田利常の軌跡

講座の開催された11月15日は好天で、紅葉の秋を満喫するには絶好の日でした。講師に見瀬和雄金沢学院大学名誉教授をお迎えし、小松の町づくりの基礎を築いた利常の一生を振り返りました。そのダイジェストを紹介します。資料はHPをご覧ください。

【出自から自立まで】文禄2年(1593)に侍女千代より出生。利家の四男で、幼名猿千代。越中守山城で前田長種夫妻に養育される。浅井畷の戦い後、前田利長と丹羽長重の和議により前田家の人質として、猿千代が出され、小松城に入る。このことは、猿千代が利家の次男利政に替わり、長男利長の嫡男になることを意味し、利常の運命に大きな変転のきっかけとなる。慶長10年(1611)、利長が富山城に隠居、利常(当時は利光)が三代当主となり、金沢城に戻る。同16年に幕府から諸大名に三か条の誓詞を求め、絶対忠誠を約束した。この機に、利長は利常(16年に改名)に藩政を明け渡し、利常は名実ともに120万石の大名となった。

【財政危機】利常は、大阪夏の陣で松平忠直に次ぐ論功があり、幕府から四国郡加増の申し出があったが、辞退し、そのため家臣に恩賞を渡す土地がなかった。その問題を加賀と能登の検地を新たに実施し、高を拡大して、その加増分で補った。また、將軍の婿という立場から幕府の事業には率先して取り掛かった。大阪城再築支援、江戸城再築普請がその例である。他にも、將軍家光、大御所秀忠の江戸の加賀藩邸への御成でも婿らしい大振舞いが行われた。この危機を塩の専売制の実施や会計を掌る御算用場の職務既定の改革を行って乗り越えた。

【隠居後】利常の嫡男利高が、正保2年(1645)に急逝する。その後を継いだのが3歳の綱紀であったため、利常が補佐した。利常はすでに隠居して(1640)小松城に居り、当主ではなくフリーな立場であったことから、藩行政を指揮することが可能となった。当時、家中の困窮と凶作続きの財政困難で年貢収入の安定が必要であり、そこで取り組んだのが「改作法」であった。各村に「村御印」を出し、年貢率を固定し、取り立ても家臣が行うのではなく、十村に務めさせた。こうして藩主、領内の家中、百姓の三方が上手くいく仕組みを考え、財政は安定した。

【一番大名】振袖火事として有名な「明暦の大火」(1657)により江戸城は全焼。その再築普請が諸大名に命じられたが、時の藩主綱紀は、若年だったこともあり、声が掛からなかった。焦る綱紀に対し、利常は、「加賀藩主は一番大名だから重要な普請をその内命じられるであろう」と悠然と話したという。「一番大名」は綱紀に向けての言葉で利常自身を形容した言葉ではないが、内心は自分が「一番大名」だと意識していたからこそ出た言葉で、実際、その言葉どおり天守台(石垣)の普請が命じられた。現在、江戸城公園には御影石で造られた石垣が残るが、天下泰平の世に天守閣は不要との保科正之の言葉に天守閣が建ったことは一度もない。利常は石垣の竣工を見る前に江戸を発ち、小松城に戻り、万治元年(1658)に逝去する。

＊講座後、博物館主催で、芦城公園から小松城石垣まで利常にまつわる史跡を巡った。折しも石垣の階段整備(写真左)が終わり、天守台を上ることができ、白山が一望できた。



市制 80 周年記念 『写真でふりかえる小松市～小松市 80 年のあゆみ～』

いよいよ市制施行の 12 月 1 日を迎え、記念行事も最終章となりました。今回は、先月に引き続き様々な式典の平成版をご紹介します。その当時の市政カラーを反映した記念行事が数々展開されています。



【平成 2 年(1990) 市制 50 周年】春の章の園遊会、夏の章と秋の章の祭典、フィナーレの式典へと展開し、50 年後の未来に向け、12 月 1 日を期して、「夢のタイムカプセル」(写真上)として、市内 245 の全町が一斉埋設した。開封は、市制 100 周年の 2040 年 12 月 1 日に行われる。



【平成 12 年(2000) 市制 60 周年】21 世紀の幕開けでもあり、毎月ビッグイベントが開催された。裏千家家元千宗室氏の講演会、ベルリンフィルの最強メンバーによる公演など超豪華な演出が次々行われた。施設の新築も目立ち、せせらぎの郷、宮本三郎美術館などがオープンしている。

【平成 22 年(2010) 市制 70 周年】4 月の芦城公園園遊会(写真左下)を皮切りに、記念イベントが目白押しに開催。当市のイメージキャラクターとして「カブッキー」(写真右下)が誕生。「小松うどん」を地域ブランドとして発信。コマツ工場跡地に研修センターの建設が始まったのもこの年だった。施設としては道の駅「こまつ木場潟」、埋蔵文化財センターがオープンし、当市の歴史と文化の厚み、先人の知恵と誇りを感じ取る 1 年であった。

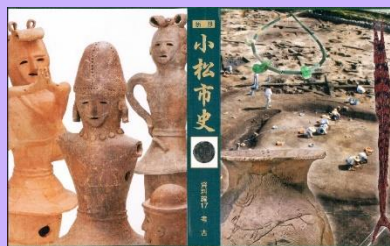
<11 月の活動状況>

- ・11 月 7 日(土) 近現代部会
- ・11 月 7・28 日 近現代関係資料調査
- ・11 月 12 日(木) 災害関係資料調査
- ・11 月 15 日(日) 第 91 回市史講座

<12 月の活動予定>

- ・12 月 6 日(日) 通史(近世)部会
- ・12 月 19 日(土) 近現代部会

12 月末日で『考古編』の特別価格販売が終了します！



特別価格 3,900 円
(12 月末日まで)
定 価 5,100 円
(1 月より)

販 売 所 図書館(市史編纂担当)
うつのみや小松城南店
明文堂書店小松ツリーズ



<12 月のカレンダー> 開室時間 10:00~12:30/13:00~17:00 (火~土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
11/29	11/30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1/1	1/2

* は閉室しています。開室時間は、図書館の開館時間に合わせてあります。上記以外の時間で、御用のある方は、9 時から 17 時まで受け付けますので、下記にご連絡ください。

小松市史編纂担当(小松市立図書館 2 階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>